

# 太陽と土と住まい

コロナの影響で家に居続けられるように仕向けられた世の中。

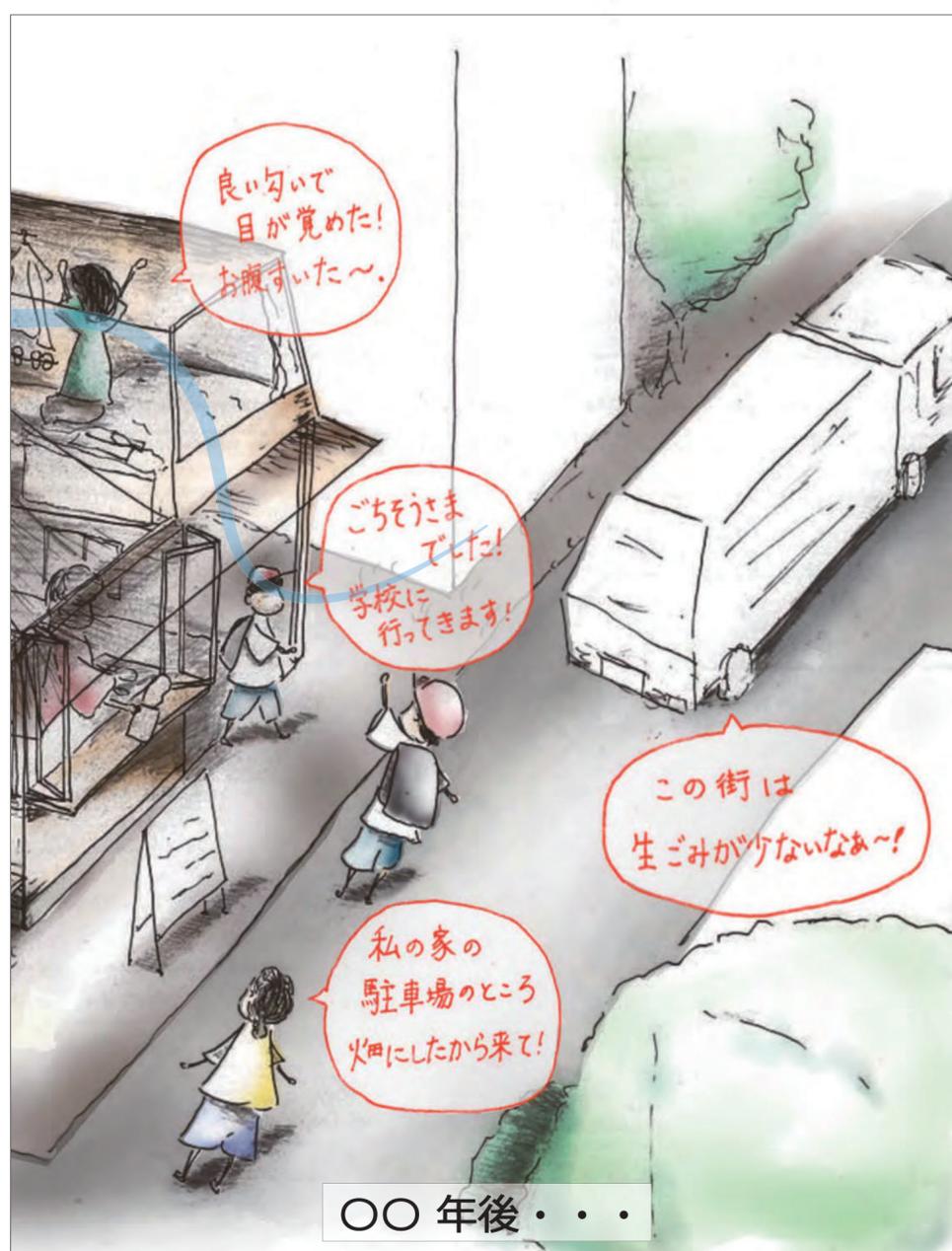
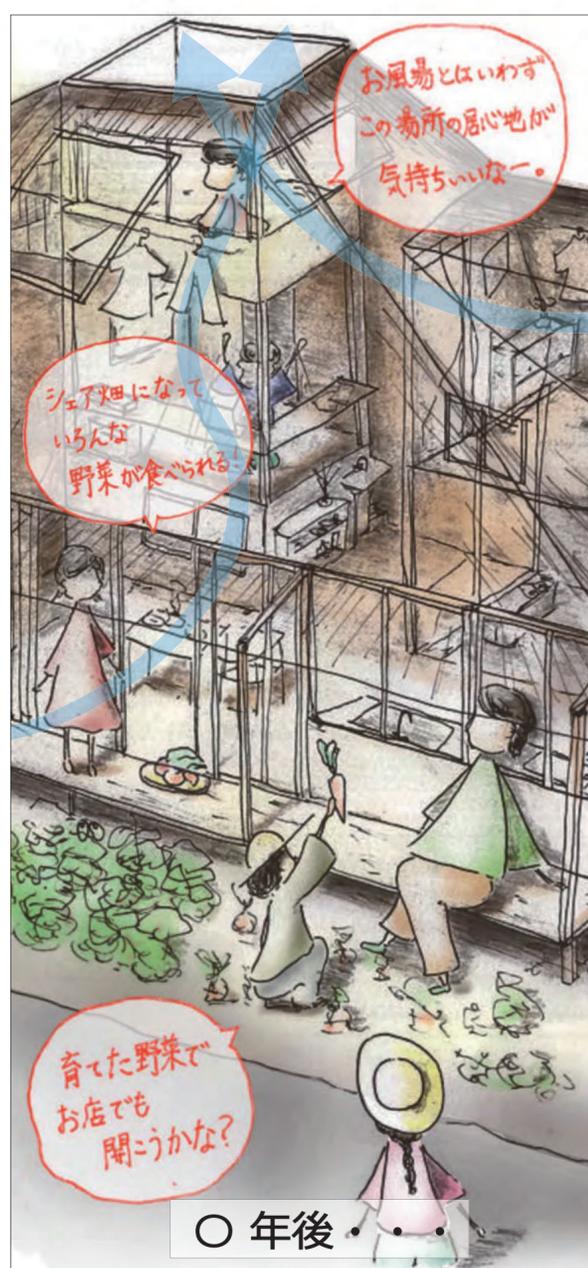
変わらぬ住まいの風景に、土と太陽を取り入れることで生まれてくる新たな時の流れ。

微かな変化に、住まい手、街の人、植物、そして建築も共に成長していくことで新たな生活を獲得していく。

土の上で虫たちが集まるにぎやかに生きてきた!

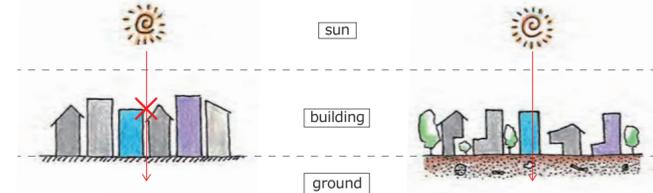
家庭菜園なのかしら〜?

1年後・・・



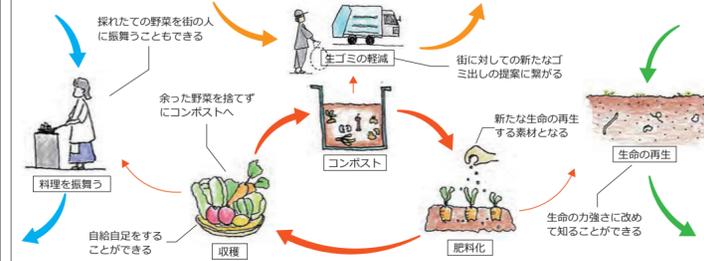
## 01- 提案

01-a : 土と太陽を生活の中に取り入れていく



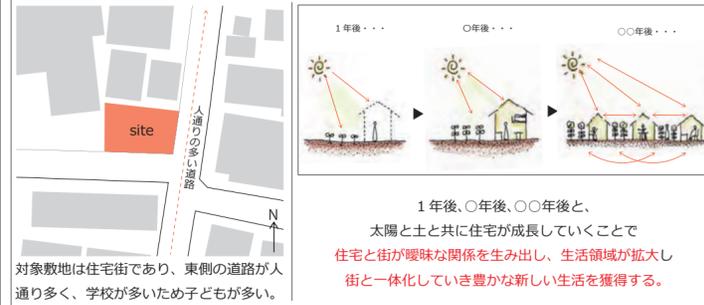
現在の都市における住まいは建物が太陽と土を分断している。そこで土と太陽を都市の住宅に取り入れることで新たな生活のアクティビティの一部となることで暮らしが豊かになる循環が生まれてくる。

01-b : 生活の中で生まれる新しい循環

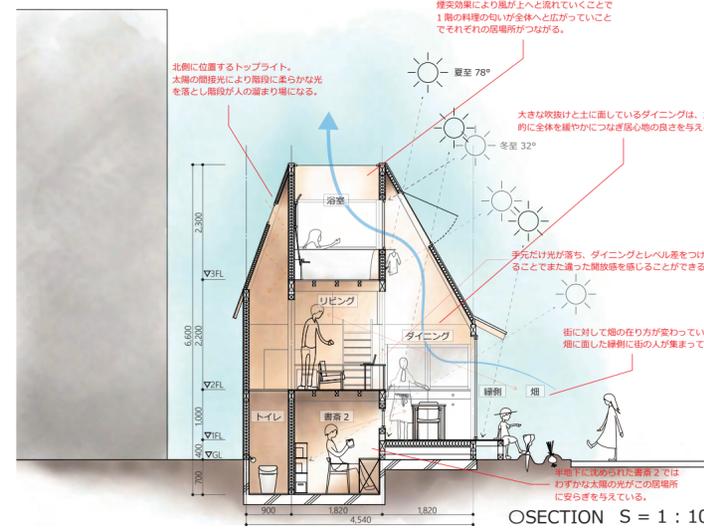
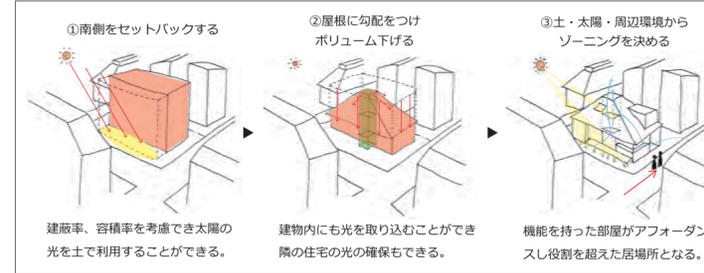


農業をし、コンポスト、そして肥料化する循環を暮らしに取り入れることでそれをきっかけに野菜を隣人にあげたり、生ゴミのコンポストをすることが街に対しての新たなゴミ出しの提案といった次への循環が生まれてくる。

01-c : 敷地/土と太陽による新しいつながり - 共に成長していく住宅 -



## 02- 形態ダイアグラム



落ち着きを求め、小さな窓のついた書斎2へ



1人で集中できるこの居場所に、小さな窓を通して太陽の光をそっと気遣って落としてくれるような安らぎに満ちた居場所である。

寝室から内側を見る。



煙突効果により、環境がコア部分のてっぺんに吸い込まれるように動きその先の浴室にトップライトからの光が注ぎ込まれている。この住民だけが知る1番居心地の良い居場所である。

南側から光が差し込むダイニングとキッチン



2人にとってこの簡素な空間は、適度な身体感覚を獲得し、右側の土と接続した掃き出し窓を開くと街に開放的になるというよりは2人の豊かな生活が外へおすそ分けするような感情に陥る。

東側の道路から見る



畑と人通りの多い道路に沿ったキッチン。畑からは連続性を持ち、道路側ではお店のような顔になり、キッチンの居場所の生活領域が拡大していくことでコミュニティを生む。

南側から書斎1とダイニングを見る。



半地下にある書斎1ではダイニングと少しレベル差や開口部を変えることでダイニングと違った快適さが生まれる。土の目線で見ることができるこの場所は変わりゆく土の変化を身近に感じることができる。

## 図面

